

平成 21 年度社会人の学び直し評価会議議事概要

開催日時 平成 22 年 1 月 29 日 (金) 15:00 ~ 16:30

場 所 大分工業高等専門学校 会議室

議 事

議事に先立ち、企画室長から資料に基づき外部評価委員の変更と欠席について説明があった。また、本会議の議長を川邊委員とすることで了承をいただいた後、工藤委員から、資料に基づき第 4 回評価会議で外部委員から頂いたご意見等に対する改善等事項について説明があった。

・学び直し事業について

委員交代等のため、工藤委員から、資料に基づき、学び直し事業についての概要説明があった。外部評価委員からの質疑等はなかった。

・平成 21 年度事業実施状況

(1) 平成 21 年度事業の実施状況について

工藤委員から、資料に基づき、平成 21 年度実施した講座についての説明があった。

- 平成 20 年度の実施状況を踏まえ平成 21 年度は応募用紙にアンケートを付けた。
- 応募者はどの講座も比較的女性が多かった。
- どの講座も募集は 10 名としていたが、検討の結果 15 名を選考した。
- 選考した後に就職等の理由で受講できない場合があり、結果的に講座により受講者数の違いがあった。
- 講座日数の 7 割以上出席で修了、認定試験の 6 割以上正解で合格とした。
- 平成 20 年度は講座実施 6 か月後に、平成 21 年度は 3 か月後に追跡調査を実施したが、非正規での就職者まで含めるとかなり多くの人が就職を果たしている。

工藤委員から、資料に基づき、それぞれの講座について説明があった。また、本校委員が講師を担当した AutoCAD 講座、SolidWorks 講座については担当した委員からの報告があった。

学内実施講座について

「AutoCAD 講座」

- CAD の経験は問わないが、図形描画の経験があり、パソコン操作が問題なくできる人を基準に受講者を 15 名選考した。

衛藤委員からの報告

- 基礎的な操作方法を中心に講座を進めるよう心がけた。
- 能力認定試験で筆記試験は良くできていたが、実技の成績が悪かった。これは、実技試験のやり方が分からなかった受講者が多かったことが原因の一つであると思われる。
- パソコンの操作性を考慮し、長机に 1 名で講座を実施したが、そのため受講者同士の交流があまり見られなかった。事後アンケートでも受講者からの指摘があり、パソコンの操作性を重視しすぎたのは問題と反省した。

「SolidWorks 講座」

- 応募時のアンケートによると受講者の状況は図形描画経験者 13 名、CAD 経験者 10 名が含まれており、パソコン経験が十分な人 15 名を選考した。
- 平成 20 年度実施の SolidWorks 講座は総時間数 20 時間で実施したが、時間数が不足していたという反省から、平成 21 年度は 25 時間に増やした。
- 受講者決定後の就職等の理由から、最終的には実質 11 名の受講者となった。

中道委員からの報告

- 選考する段階から申込書で確認したので、パソコンの操作は問題なくできていた。
- CAD 経験者が受講者の中にいたため、2 次元 CAD と SolidWorks の違いがわかるように指導するよう心がけた。
- AutoCAD 講座の反省点を活かし、長机に 2 人掛けにする等、受講者間のコミュニケーションがとれるよう工夫した。
- 建築製図の学習を希望していた受講者が途中で辞めた点では、募集段階から講座の内容

を提示したほうが良かったと感じた。

- マイクを持ってパソコン操作をするのが難かったのでピンマイクを使用する等の準備をしたほうが良かった。

学外実施講座について

- 九州東芝エンジニアリング織田氏に講師を依頼し実施した。
- 平成20年度講座を実施した状況から、1回を3時間とし、全8回総時間数24時間に変更して実施した。

「Microsoft Word 講座」

- 全くの初心者対象で募集し、受講者には初心者と経験者が混在していたので苦労が多かったようだ。
- 休憩時間や講座前の時間を利用して初心者に対応する等工夫して指導頂いた。
- 受講者14名全員が修了し、認定試験も全員が合格した。
- 非正規社員まで入ると就職者は増えているが、無職も多い。

「Microsoft Excel 講座」

- 受講者の年齢が26才から56才と幅広かった。
- 織田氏はメリハリのある受講者をひきつける話術で講座を進めてくれた。
- 就職決定等での辞退者はあったが、修了状況も良く、認定試験結果も良い成績だった。
- 事後アンケートでの評価は良かった。

(2) 受講者に対する追跡調査の結果について

工藤委員から、資料に基づき、2年間分の追跡調査を見ると、回答者68名のうち25名が何らかの形で就職状況が好転したと言えるとの説明があった。講座受講前は無職であった29名のうち15名は、その後何らかの職に就いていることが分かった。

(3) 学び直し事業座談会の実施について

工藤委員から、資料に基づき、12月5日(土)実施した社会人の学び直し事業座談会について報告があった。

- 計画段階では受講者の参加はあまり期待できないのではとの懸念があったが、11名の参加があり活発な話し合いができた。
- ただ単にスキルを見につけるだけではなく就職には人間力を身に付けることが大切であるということが座談会でも話し合われた。
- 受講者からその後の就職活動に関する印象深い体験談も活発に交わされた。

(4) 本事業実施担当者の感想

藤本第二実行委員長の感想

これまで公開講座等実施してきており、経験を積んできたつもりだったが、社会人に教えるのは初めてで戸惑いがあった。指導技術も含めた講習会を開き、専門講師に教えてもらった。また、講師を担当する技術職員自身が専門資格も取り、講座実施に臨んだ。わかりやすく、退屈しないように心がけ、工夫したが、講座を途中でやめた方もいた。受講者全ての要望を網羅することはできなかったようだ。また、受講者選定方法等問題点も見えてきたので今後役に立てたい。

講座を受講したからといってすぐに就職には結びついていないようだが、何らかの役には立っていることを実感することができた。

いろいろと協力いただいたことに感謝する。

高石委員(平成20年度Microsoft Word 講座担当)の感想

受講者には色々な面でバラつきがあり、指導する側が緊張してしまったので場の雰囲気固くなった。また、時間配分がうまく行かず、結果的に復習時間が取れなくなり残念だった。学生への授業などに経験を活かしたい。

岩本委員(平成20年度AutoCAD 講座担当)の感想

講座実施前にCADの講習会を受けたことが役に立った。講座を実施していて、CADソフトは高額なので個人では持てない点で受講者のモチベーションが下がることを感じた。無料ソフトを利用する等の工夫はしたが使用期限が限られているなどの問題点があった。対策として、パソコンを貸し出す所まで考えてはどうかと思った。

高橋委員（平成20年度SolidWorks講座担当）の感想

SolidWorksは専門的なソフトだが、基本的なことを教えるよう心がけた。次のSolidWorks講座に反省点を伝え、改善できた点は良かったのではないかと思う。

（5）カウンセラーの感想

小島氏（学内講座担当）の感想

12月5日の座談会に参加したが、受講者が生き生きと自分の夢などを語る場面も見られて良かったと思う。

就職先を探す際、年齢を気にする求職者が多い。年齢不問で採用と表向きはなっているが、なかなか現実はそうではないので、企業の方には人物評価を重視した採用をお願いしたい。

受講者決定に当っては、応募者の事前面談などがあっても良かったのではないかと感じた。

1、2回目で欠席者が出たときは、受講者を補充追加することも考えてはどうだろうか。

CADの技術を学んでどんな就職があるかということと話しながら面談したが、CADに関することなどは高専の先生の方が詳しいと思う。高専生の就職を担当している先生のアドバイスもあれば、より受講者のニーズに沿った支援ができるのではないかと感じた。

岡野氏（学外講座担当）の感想

ニート・フリーターの人がいるなど、受講者はあらゆる面で幅広かったため、就職活動に必要なこともそれぞれ差が大きかった。そのため、全体に向かって話をするのは難しかった。

就職活動は心構えの違いで結果に差が出る。「就職活動は本丸を落とすことだよ。」と伝え、そのためには何をすれば良いのかを考えてもらった。初回から自分自身で考えてもらうことを目当てに指導を計画していった。自分自身のことをじっくり考える機会を持ってもらえたのは良かったのではないか。

（6）ニーズ調査結果について

工藤委員から、資料に基づき、ニーズ調査について説明があった。

- 大分高専で実施して欲しい講座では表計算ソフトの要望が圧倒的に多かった。
- パソコンのOSに関しては、圧倒的にXPが多いが、VISTAや2000も3割前後ある。
- アンケートを依頼した企業から大分高専でこのような事業を実施していることを知らなかったとの回答があった。広報のしかたを工夫する必要があった。

（7）今後の計画等について

工藤委員から、何らかの形で学び直し事業で実施したような講座を続けていきたいという気持ちを持っているとの説明があった。

・事業へのご意見等について

川邊議長からユニークな講座体系であり、講座の内容も良くなっていくだろうと思う。積極的な意見を頂きたいとの提案を頂いた。

阿南評価委員

8人の正社員が生まれたようだが、受講者の中にニートに該当する人がいたか。また、その人は就職まで至ったか。

工藤委員

ニートかどうか確認したわけではないので把握していない。

岡野氏

カウンセリングを通してニートに該当する人があり、カウンセリングした経験からは珍しいケースだが、一番カウンセリングを多く受けた。

阿南評価委員

受講者は大分市や別府市の人か。

工藤委員

臼杵市や豊後大野市からの受講もあり広範囲から受講した人があった。

阿南評価委員

就職した人の男女比はどうか。

工藤委員

まだ集計していない。

石坂評価委員

織田はいろいろな講座を実施しているが、どの講座でも受講者同士のコミュニケーションにこだわった指導をしている。学び直し講座の受講者のその後のつながりはどうか。

工藤委員

調査をしたわけではないが、講座実施中に仲間意識ができていく様子は随所で感じた。また、学内の講座でも1テーブル2名にした講座では温かい雰囲気があり仲間作りはできていたと思う。

校長

SolidWorks 講座のスケジュールに MasterCAM 5 軸マシニング加工実演とあるが、受講者全員が実習したのか。

岩本委員

講師がデモを行った。受講者が作ったものではない。

下郡評価委員

質問ではないが、織田先生の授業がとても解かりやすかったと座談会では何人も言っていた。

足立評価委員

宇佐市の地域雇用創造協議会での講座を衛藤先生にしてもらっている。この講座はCADと管理技術を教える内容になっている。自分たちが実施している内容があまり良くないのでリニューアルしたい。学び直し事業でのノウハウを活かして、大分市の講座の基幹として協力いただけないだろうか。

福永副委員長

どれくらいの時間数のどんな講座か。

足立評価委員

今から考えるところだ。今までのことをやめていこうという方向で内容を充実させたいと考えている。

校長

学び直し事業は文科省からの委託で実施しており、講座を実施することと同時に基盤作りが目的でもあるので今回を出発点にしたいと考えている。職務に影響しない範囲内の協力はできると思う。

足立評価委員

自分たちはものづくり人材育成事業として実施しており、企業の人達の人材育成を目的としている。学び直し事業とはターゲットが違うが、支援していただけるか。

校長

大分高専では経済産業省のプロジェクトも実施経験があるので十分支援はできる。

柴北評価委員

ニーズ調査結果を見ると、ホームページ作成の講座等、かなり受講したい人が多いことが伺える。ニーズがあるのだなと感じるので拡大して欲しい。中小企業では受講料を払っても受けたいのではないかと思う。

馬場評価委員

ジョブカフェで相談を受けた中で、自分に自信がもてないという人が多い。自信を持つための技術を教える講座が必要だと思う。また、学び直し講座はカウンセラーも常駐していて、求職者のモチベーションを上げることも考えてあると感じた。

川邊評価委員

形を決めて与えられるものと、モチベーションを与えることと、全く違うところがあるのではないか。困難に思われるが、ばらばらの人を1つの教室で教えこなししている。カリキュラムとモチベーションの関係性について話して欲しい。

衛藤委員

例えば専門用語がすぐに理解できる人と抵抗がある人がある。そんな場合は一斉指導ではな

く、補助員が指導した。学生スタッフも含め補助員の存在に恵まれていた。

下郡評価委員

おおいたサポステから紹介したニートの方がこの講座を受講し進歩した。他にも類似の職業訓練はあるが、毎日通所しなくてはならない。いきなり毎日通うことに抵抗があるようだったので、週1回の学び直し講座に応募してみるよう勧めた。何もできなかった人が週1回だったおかげもあり、少しずつ参加する事ができるようになった。また、講座終了後職業訓練に行くようになった。まず学び直しでやってみて、続いたら次のステップに進めるのでぜひ続けて欲しい。

足立評価委員

この事業の真の目的は何かということや、最初の目的に照らし合わせ、ざっくり言って満足度はどうか。

校長

一般から見れば目的がこれだけなら小さいと思うかも知れないが、やり方という基盤を作っている。人間力を作るという価値や、AutoCADなどの技術的な面で職員自体も学習した。学生の能力の向上にも繋がったのでかなり成果はあがっていると思われる。

工藤委員

県内8大学で実施している戦略的大学連携支援事業でパソコンの講座を他校と協力して今後実施したいと考えている。

福永副委員長

現在、文部科学省の委託を受け「学び直しモデルプログラム」策定事業にかかわっている。4つの大学・高専で策定しているところであるが、単に講座を実施するだけでなく、キャリアカウンセラーを配置したり、講師を補助する職員や学生を配置したりするなど、大分高専の実施内容は評価できるものだと感じた。成果は非常にあったと思うが、どうやって継続したら良いか模索中である。

川邊評価委員

今後もみんなで盛り上げて継続できるようにしてほしい。

